



遠い思い出に身をなげる

地下鉄の窓から

吹き込む風が

ほろ酔いほほに冷たい

とざされた壁の冷たさを

さえぎりながら走り続ける

あなたの側にいられたら

大人ばかり乗りこんだ最終電車

傷ついた心を寄せ合うように

小さなささやきが聞こえるばかり

わかりあえない二人ならば

一人になろうって

口に出した

ふるえる声でさよなら

大人ばかり乗りこんだ最終電車

傷ついた心を寄せ合うように

小さなささやきが聞こえるばかり